

第5回三重県の観光振興のあり方検討懇話会 概要

日 時：平成23年6月2日（木）13:30～15:50

場 所：アスト津3Fみえ県民交流センター ミーティング ルームA・B

（議事内容）

これからの観光振興のあり方についての意見交換

（主な内容）

意見を申し上げますと、以下の3点である。

1点目は、「観光行動」の定義である。観光学という学問において、「観光行動」とは「観光者の行動」を指す。「県民が、地域における観光振興に参画する」行動は非常に良い概念だが、学術的には「観光行動」とは呼んでいない。

2点目は、「県民の主体的な取組を観光振興に役立てる」といった側面が強調された一方で、産業振興の側面が少し弱まった印象を受ける。

やはり観光の主役は民間事業者である。地域の雇用を創出し、経済の活力向上に結びつく産業振興の要素が必要である。基本計画において、意識して盛り込んでどうか。「観光産業が、三重県産業の柱となるんだ。重要な地場産業なんだ。」という位置づけを示すことができるとよい。

最後に3点目として、三重県は海に面した観光地が多い地域である。「観光旅行の安全確保」では、情報提供といった安全面に加え、「きちんと避難できますよ。誘導しますよ。」といった面まで踏み込めると、より安心感が高まるのではないか。

短期・中期の取組、取組の濃淡等は、基本計画に盛り込めばよい。

三重県らしいアイデンティティを持った条例になったと思う。

「事業者の役割」において「連携協力」が求められているが、最近、この連携協力が軽く扱われているように思う。何のための連携協力なのかが大事である。

「前文」の第3段落の「観光を取り巻く環境の厳しさ」は、「等」でまとめるのではなく、例えば、消費者の観光地を選択する目が厳しくなっていると、はっきりと現状の問題点を明記した方が説得力は増すのではないか。

「前文」は、4つの旧国名を用いることによって良くなった。

歴史を添えて説明することで説得力が増す。問題を明らかにするために、そのような表現があってもよいと思う。

「関係団体の役割」では、個々の事業者の活動には限界があり、事業者を束ねる

役割が観光協会には期待されている。

「人材の育成」について「心のこもったおもてなし」をしっかりとやってほしい。もてなす人の背景や人間関係も含め、「心のこもったおもてなし」が人を惹きつける。

また、今後の「地域別観光振興の方向」については、地域において重要な役割を果たしている人たちとの間でしっかりと詰めてほしい。

海外誘客について、「第一目的地とする」は遠い将来のことではないか。

三重県を訪れる外国人観光客のほとんどは、何らかのきっかけで、ついでに立ち寄ったというのが実態である。第一目的地とする戦略に対して、どこまでリアリティを持たすことができるのか難しいように思う。

基本計画は、公表しやすさも考慮して策定してほしい。年次報告の際、1年の間に、どんな目新しさがあったのかを説明できるとよい。

外から三重県を見た時、「今年の三重県は　　！」が伝わってこない。例えば、「食」や「人材育成」等、統一テーマを打ち出し、1年後には「このテーマに取り組んだ結果は、　　でした。」と報告できるとよい。

おもてなしはテーブルで勉強するものではない。イベントを通じて市民を巻き込みながら進めることが、おもてなしにつながる。

「基盤づくり戦略」において、ユニバーサルデザインの取組も盛り込んでいくと、より広がり、具体的になるのではないか。

また、一番の財産である「三重人(みえびと)」を大々的にアピールしていくことも大事である。

地域それぞれが光るべきである。そのため、県内での周遊のしくみができるとうい。

自分自身が、もてなしをする側であることを自覚することが、観光力の向上につながる。

以 上